平成 ３０年　３月　３１日

研修報告書

氏名：永井　礼子

所属：東京女子医科大学循環器小児科

研修期間：平成２８年　７月　１日　～　平成３０年　３月　３１日

研修場所：東京女子医科大学遺伝子医療センター

受講動機：

医師になってから、小児科領域、特に小児循環器分野の研修を通じて、多くの染色体異常や遺伝子異常を持つ患者さん達と出会いました。そのような患者さん達、そしてそのご家族の方々に対して、検査結果の説明や、その後のフォロー等、十分に満足していただけるような対応をできていなかったと感じていました。また、医学研究科において小児循環器に関する基礎研究を進めるうちに、今後医師として基礎研究者として活動していく上で、臨床遺伝学についての系統的な知識は必須であると考えるようになりました。

　そこで、小児科領域はもちろん、成人領域を含めて多彩な遺伝性疾患を持つ患者さん達に対応している東京女子医大遺伝子医療センターで研修させていただき、さらに、臨床遺伝専門医を取得できればと考えました。

研修内容：

（１）遺伝子医療センター外来への参加（不定期）

（２）症例検討会への参加（週1回開催）

（３）月例会への参加（月1回開催）

研修成果：

インテンシブコースを受講した成果として、第一に挙げられるのは「後悔」です。あの時、あの場面で、このように対応すればよかったのだな、と、指導してくださる先生方の対応を拝見しながら、何度となく考えました。遺伝性疾患を持つ患者さん達とご家族の苦悩も、迷いも、いままでは十分にはわかっていなかったのだと痛感しました。

遺伝子医療センターで、小児科領域、産婦人科領域、その他成人領域における、さまざまな遺伝性疾患の患者さん達と出会い、学ぶことができました。そしてコースが進むにつれ、自分の外来で患者さん達を診る際に、遺伝診療からの視点が加わって、よりよい診療ができるようになってきたと実感しています（インテンシブコース開始後、対応に遺伝領域の知識が必要な患者さん達を担当する機会が飛躍的に増えたのは偶然でしょうか… これまでは考えが浅すぎたのかもしれません）。

また、分子生物学の基礎研究を臨床の合間に細々と行っているのですが、このコースで経験したさまざまな遺伝性疾患の診療、そして月例会で教えていただけた、さまざまな遺伝性疾患に関する最新の知見を基に、検査結果のよりよい解釈と対応、病因へのアプローチ方法、新たな治療法の開発等についての視野が大きく広がり、基礎研究の方にも応用することができています。これは正直、想定外の収穫でした。

その他（感想・要望・反省点、等）：

インテンシブコースでの研修を通じて、綺麗ごとではなく（というと語弊があるかもしれませんが）遺伝診療の知識は、全ての医師が有しているべきだと強く感じました。遺伝診療への関心が高く、しかし身近で遺伝診療に関わる機会をなかなか持てない方には、このプロジェクトは大変有益だと思います。むしろもっと規模を拡大していただきたいです。同期や後輩達にも参加を勧めております。

これまでの自分が行ってきた臨床でも、基礎研究でも、ずっと欠けていたものを補っていただきました。心から感謝しております。ありがとうございました。